

インフルエンザワクチンの接種についての説明書

<インフルエンザの予防>

インフルエンザは空気中に拡散されたウイルスによって感染します。予防のためには人混みは避け、外出時のマスク着用や帰宅時のうがい、手洗いに心がけましょう。また日ごろから十分な栄養や休息をとることも大事です。室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ちましょう。

インフルエンザワクチンを接種後、免疫がつくまでに2週間程度かかります。効果の持続は約5か月といわれており、毎年流行前の12月上旬までに接種を受けておくと効果的です。

<ワクチンの効果と副反応>

ワクチン接種により、感染を予防したり、症状を軽くすること、合併症や死亡を少なくすることが期待できます。但しワクチンの効果は完全ではありません。

副反応は一般的に軽微で、注射部位が赤くなる、腫れる、痛くなる、しびれることなどがありますが通常は2~3日で消失します。全身反応として発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔気・嘔吐、下痢、関節痛、筋肉痛なども起こることがありますが、通常は2~3日で消失します。過敏症として、まれに蕁麻疹、湿疹、紅斑、かゆみなども起こります。また非常にまれですが、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難など)、急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、けいれん、肝機能障害、喘息発作などの報告があります。

<健康被害の救済制度>

ワクチンの接種によって医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、その健康被害がワクチンの接種によって引き起こされたものかどうかを専門家において審議し、ワクチンの接種によるものと国が認定した場合に補償を受けることができます。

<予防接種を受けることができない人>

- 1 37.5℃以上の熱のある人、
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人、
- 3 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けてアナフィラキシーを起こしたことがある人、
- 4 その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

<予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人>

- 1 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、発育障害、気管支喘息などの病気のある人、
- 2 過去に予防接種を受けたとき2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人、
- 3 けいれんを起こしたことがある人、
- 4 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人、
- 5 鶏卵アレルギーのある人、
- 6 妊娠の可能性のある人

<ワクチン接種後の注意>

- 1 摂取後30分間以内に急な副反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして様子を観察し、異常があれば医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- 2 接種当日の入浴は差し支えありません。注射した部位をこすことはやめましょう。
- 3 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 4 万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師に連絡してください。